



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：原則主義派の動き（次期国会選挙に関するラーリージャーニー国会議長の発言）
(24日付シャルグ紙)

24日付シャルグ紙は、次期国会選挙に向けた現在の状況に関するラーリージャーニー国会議長の発言について報じている（23日のメフル通信とのインタビュー）

1. （原則主義派の団結を目的とした、アフマディーネジャード大統領による会合と、戦う聖職者協会およびコム神学校教師協会による会合の違いに関し）（聖職者が入っているかどうかの）外見が問題なのではなく、イスラム思想において卓越しているかが問題なのである。当然、聖職者やイスラム学者は、一生涯をかけてそれ（イスラム思想）に取り組んできたのであり、彼らは、より深く政治問題に関わることができ、イスラムの問題における過ちを犯すこともない。
2. （別個の主体が団結を追及することは、分裂をもたらすのではないかと問われ）三権の長は、選挙に介入することを欲しておらず、また、介入してはならない。それぞれの政治勢力こそが選挙において活発でなければならない。
3. （一部の政治的人物が述べているように、改革派が次期国会選挙に参加しなかった場合、原則主義派内の団結の実現は合理的なものであろうかと問われ）選挙前には、常に、選挙に関する予断がつきまとうものである。現下の状況でこの予断があることはそれほどおかしなことではない。体制は、体制を重要だと考え、憲法の枠内で行動している全ての政治勢力の参加のための道を用意しており、これはイランにとってよい包容力（を示すもの）である。
4. （選挙から一部の政治勢力が除外されることについて）イランの政治状況において、新たな出来事が生じるわけではなく、そのような考えは間違っている。ハーメネーイ最高指導者の態度は常に、様々な政治勢力が選挙に活発に参加するような環境を整えるというものである。全ての者は国民の権利と憲法を正しく尊重しなければならない。この枠組みは重要であり、競争はこの枠組みの中で行われるべきである。
5. メディアは、イスラム革命の権威の向上が、どのような政治的振る舞いに秘められているかについて検討することができる。また、それによって、現在イランの政界に存在し

ているあらゆる霧囲気から抜け出し、より高次の政治思想に至るように行動することができる。もちろん、政治的人物にもこの道を歩むことを勧める。

中東調査会補足

1. 原則主義派の団結を目的とした、アフマディーネジャード大統領による会合と、戦う聖職者協会およびコム神学校教師協会による会合について、ラーリージャーニー国会議長は後者を支持し、前者を否定している。また「三権の長は選挙に介入すべきではない」と述べることにより、選挙で主導権を握ろうとするアフマディーネジャード大統領の動きを牽制したものと見られる。
2. ジャンナティー憲法擁護評議会書記が、改革派による選挙参加に否定的な発言を行ったことに関し、ラーリージャーニー国会議長が異論を述べている点（上記2と4）が注目される。